

基盤工学部紀要規定

2017. 4. 1 制定

東海大学基盤工学部紀要委員会

基盤工学部紀要一般規定

基盤工学部紀要一般規定を次の通り定める。

1. 発行

- (1) 基盤工学部紀要の発行者は東海大学基盤工学部とする。
- (2) 基盤工学部紀要は原則として年1回発行する。
- (3) 発行時期は3月末とする。
- (4) 原稿締切は10月末とする。
- (5) 基盤工学部紀要発行計画は、基盤工学部紀要委員会より通知する。

2. 著者（投稿資格）

- (1) 基盤工学部，九州教養教育センター（理系）所属の助教以上（常勤・非常勤の別を問わず）。
- (2) 基盤工学部紀要への掲載を希望する他の学部等所属の助教以上（常勤・非常勤の別を問わず）。

ただし、(1)，(2)の場合，学外の共同研究者を含むことはさしつかえない。

- (3) 本学の大学院院生，学部学生，研究生，研修生，研究員及び技術職員。ただし，基盤工学部，九州教養教育センター（理系）の専任教員との共同執筆であることが必要である。
- (4) その他，紀要委員会で認められたもの。

3. 投稿原稿の種別及び投稿基準

(1) 論文

論文は，原則としてその内容が未発表のものであって，理論・実験等に明らかな誤りがなく，独創的な研究で，学術的・工学的に価値のある結論あるいは事実を含み，論文として完結した体裁を整えていること。なお，未発表のものとは，類似の内容が基盤工学部紀要の受理日以前に国内外の印刷物に投稿または掲載されていないものをいう。

その他，紀要委員会で認められたもの。

(2) ショートノート

ショートノートは，原則としてその内容が未発表のものであって，学術的・工学的・教育研究的に価値のある結論あるいは事実を含むもので，以下の①～⑤に相当するもの。未発表の定義は，論文の場合に準じる。

- ① 論文として体裁の整わないものであっても、新しい研究・技術成果を述べたもの.
- ② 問題の提起・試論及びこれに対する意見.
- ③ 既発表の論文・報告に対する補足または修正.
- ④ 実験・実測データや新しい数表・図表などで、研究・技術の参考として役立つもの.
- ⑤ 教育内容・方法の研究 (Faculty Development) に関する内容.

4. 投稿原稿の規定ページ数

(1) 論文

4 ページ以上 8 ページ以内とする。なお、ページの超過が出た場合は紀要委員会で対応を検討する。

(2) ショートノート

原則として、2 ページ以内とする。

5. 審査

(1) 論文

- ① 提出論文の審査は、紀要委員会の議を経て査読者に依頼する。
- ② 査読者は原則として学外者をあてる。
- ③ 掲載の可否判断の審査は紀要委員会が査読者の査読結果に基づいて行う。
研究論文は査読者の査読結果に基づいて、A (投稿原稿のまま掲載可)、B (修正必要で再査読なし)、C (修正必要で再査読あり)、D(掲載不可)の審査判定をする。
- ④ 修正の必要のある論文 (B 及び C) については、著者に修正を要求する。
C については、修正された論文を再度査読し、掲載可否を判定する。修正の内容によっては、次号以下への掲載を要求することがある。

(2) ショートノート

査読は行わない。ただし、投稿規定に合致しない不備な点がある場合は、紀要委員会より原稿の修正を要請することがある。

6. 発行形態

- (1) 発行は Web によるものとする。
- (2) 研究代表者に CD を 1 部贈呈する。

7. 著作権

基盤工学部紀要に掲載された論文の著作権は、東海大学及び東海大学基盤工学部、

九州教養教育センターに帰属する。

8. その他

基盤工学部紀要規定に修正の必要のある場合には，紀要委員会で審議する。

基盤工学部紀要委員会 2017年4月1日制定

基盤工学部紀要投稿規定

1. 投稿方法

(1) 提出書類

原稿（PDF ファイルに限る）及び投稿原稿表紙（論文受付表，doc ファイル使用のこと）を基盤工学部紀要委員会事務局に提出する。

(2) 提出様式

E-mail による添付ファイルで投稿する。

原則として、1 Mbyte 程度以下はそのままの原稿，1 Mbyte 程度以上の原稿は PDF ファイルに変換して提出する。

投稿受付後，紀要委員会は投稿者に受付済の連絡を E-mail にて行う。

(3) 原稿様式

本規定の 3.原稿執筆要項に従う。執筆要領サンプル（PDF）も参照する。

2. 掲載決定後の正式原稿提出

掲載決定後の正式原稿は Word と PDF の両方とする。

投稿原稿が特殊な内容を含む場合、次のような指示を行うことがある。

(a)画像等の関係で容量が大きい場合，CD あるいは USB メモリの提出を求める。

(b)特殊なソフトでの作成の場合，あるいは正式原稿提出で問題が生じた場合，執筆者や印刷所と相談して提出方法を指示する。

3. 原稿執筆要項

(1) 和文論文

①原稿は A4 用紙でワープロにて作成する。“である調”とする。

②研究論文の書式と体裁について

・上マージン 28mm，下マージン 24mm，左マージン 20mm，右マージン 20mm とする。

・1 ページ目の論文の構成は次の順序に従って書く。

和文表題 （14 ポイントにて、MS 明朝(明朝)、ボールド体）

副題がある場合，本題の下の行に書く。（・・・）のように，（ ）でくるか，

—・・・—のように，—を両側につける。少なくとも副題であるようにわかり易くする。

改行（1 行）（10 ポイントとする。）

筆者名 (12 ポイント, MS 明朝(明朝)とする. 行の中央に記載する. 筆者名の右肩に*をつける. 二人の場合二人目に**, 筆者が 3 人以上の場合は筆者の右肩に*1, *2, *3・・・のように書く.)

(著者が複数の場合、著者名の上に空白を 1 文字分ずつ入れる。)

改行 (1 行) (12 ポイントとする.)

英文表題 (14 ポイント. 行の中央に配置する. 冠詞, 接続詞, 前置詞等の他は全て頭文字を大文字で書く.)

英文副題 (14 ポイント. (・・・) のように, () でくくる. 行の中央に配置する.)

by の文字 (12 ポイントで, 行の中央に配置する.)

英文筆者名 (12 ポイントで, 行の中央に配置する. Shigeru YOSHIDA の例のごとく記載する.)

(著者が 2 名の場合は author A and author B とし、3 名以上の場合には author A, author B and author C と表記する)

改行 (1 行) (10 ポイントとする.)

(Received : October 1, 2005, Accepted : _____) と書く. 12 ポイント

改行 (12 ポイント)

Abstract の文字 (行の中央に, Abstract の文字を書く. 12 ポイント)

英文による Abstract を 10 ポイント, 600 語以内にて記述する.

改行 (1 行) (10 ポイントとする.)

Key Words (Key Words と書き, その後に : のマークを書いてキーワードを 5 ワード以内程度で記載する. 10 ポイント)

改行 (2 行) (10 ポイント)

本文 (1 行 25 字 2 段組, 10 ポイントの文字にて記載する.)

左段の左下に 文章と筆者の所属を分けるために、線_____を引く.

その下の行に, 最初の筆者の所属 (8 ポイントにて) を記入する. その下の行に次の筆者の所属 (8 ポイント) を書く. 所属の前に*, ** あるいは*1, *2, *3 等を書く.

(例) *産業工学部機械システム工学科教授, **産業工学研究科生産工学専攻院生 等のように書く.

本文の書き方 (例)

1. はじめに (序, 序論, 緒言等) (10 ポイント, MS 明朝(明朝))

.....

改行の事

2. 理論

2.1 AB の原理

.....

改行の事

3. 実験

- 2 ページからは 2 段組で 1 行 25 字 46 行にて書く。
- 句読点は「、」、「。」を用いる。
- 英文は表題も含めて Times New Roman にて書く。
- 単位は SI 単位を使用する。従来の単位を必要に応じて併記しても差し支えない。
- 数式の行数は下記の例に従う。

$$y = ax + bx^2 + \dots \quad 1 \text{ 行}$$

$$\phi_x + \frac{1}{R_1} \phi_r = 0 \quad 2 \text{ 行}$$

$$\frac{V_x}{U} = \frac{\cot^2 \beta_1 \alpha}{1 + \frac{n\pi}{b} \left(\frac{L}{\cos \beta_2} + \frac{\tau U}{\alpha^2 \cos^2 \beta_2} \right)} \quad 3 \text{ 行}$$

- 文中の数式は $\frac{2}{3}$, $\frac{a}{b}$, $\frac{dy}{dx}$ のように記さず, $2/3$, a/b , dy/dx のように記す。
- 引用文献は論文末尾にまとめ, 本文中では通し番号で¹⁾,^{1),2)}あるいは²⁻⁴⁾などのように引用し, 以下のように本文末尾に 8 ポイントで引用文献を記載する。
(雑誌)
3) Hains, F. D. and Keyes, J. W. : Shock Interference Heating in Hypersonic Flows, AIAA J., 10 (1972), pp.1441-14471.
(単行本)
4) Batchelor, G. K. : An Introduction to Fluid Dynamics, Cambridge University Press, London, 1967, pp.580-593.
- 図名は和文では図 1・・・と、英文では Fig. 1・・・と図の下方に、表名は和文では表 1・・・と、Table 2・・・と表の上方に 8 ポイントで書く。

(2) 欧文論文

和文の表題と氏名を省くと、欧文論文の書式と体裁は和文と同じである。和文の表題と氏名を除いて執筆する。

なお、英文によっては式が長くて 2 段組での執筆が難しい場合がある。この場合 1 段でも構わない。

(3) ショートノート

- 1 ページ目の執筆方法は研究論文と異なることに注意する.
- Abstract は不要である.
- 1 ページ目から, 全て 2 段組にて書く. 片段 1 行 25 字 46 行とする.
- 1 ページ目は次の順序で書く.

和文表題 (12 ポイント, ゴシック, MS 明朝 (明朝))

英文表題 (12 ポイント, ゴシック, Times New Roman or Times)

和文筆者 (10 ポイント, 筆者の右肩に所属に従って*, **等を付ける.)

英文筆者 (10 ポイント)

改行

本文

研究論文と同様な書き方で左段の下に, 所属を書く. (8 ポイント)

- 本文の執筆方法, 引用文献, Fig. 名等の書き方は研究論文と同じである.

基盤工学部紀要委員会 2017 年 4 月 1 日制定